

茅ヶ崎市博物館周辺の動物相

長尾 直樹*

1. はじめに

茅ヶ崎市博物館(以下「博物館」という)は市北部の丘陵地に位置し、北は県立茅ヶ崎里山公園、南には相模川支川の駒寄川が流れる自然の豊かな環境に置かれている。多彩な自然環境に囲まれた博物館、その周辺には多様な動物たちが立ち寄り、季節や時間によって日々刻々と変化しながら様々な姿を私たちに見せてくれる。はつらつと植物が芽吹く観察広場、博物館という新しく構築された人工物の作り出す環境には、どのような動物が生息しているのだろうか。

2024年7月からは博物館内市民交流スペースにて、博物館周辺で観察された動物の特集展示「夏休み！動物パネル展」を開催した。本稿では、パネル展実施にあたり、観察広場及び駒寄川沿いでの観察結果とパネル展終了後に確認された動物を紹介する。

2. 観察地と方法

観察広場及び駒寄川沿いを観察地(Fig. 1)とし、2024年4月から12月にかけて、徒歩による観察を計66回実施した。観察区域を約20分間かけて歩き、目視及び採集による定性的な手法での記録を実施した。採集が困難な場合においては写真撮影を行い、画像による解析を進めた。なお、採集した一部の生物は、標本化を実施した。



Fig. 1. 観察地の様子

3. 観察された動物

コイ目

コイ科 - コイ *Cyprinus carpio*

河川や池、湖などで観察される。雑食性であり、水草や昆虫類、甲殻類などを捕食する。口内に歯は無いが、喉の奥に咽頭歯と呼ばれる器官を持ち、硬い食物の摂食に使われる。(Fig. 2)

ドジョウ科 - ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus*

川底などで観察される。口の5対のひげには、味蕾があり、獲物の探索に役立つ。(Fig. 3)

スズキ目

ハゼ科 - スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis*

流れの緩やかな川などで観察される。「ゴリ」とは、ハゼのような形態で底生の魚のことを指す。本種は川底ではなく中層でみられ、「浮くハゼ」からウキゴリとなったとされている。(Fig. 4)

無尾目**アマガエル科 - ニホンアマガエル *Hyla japonica***

田などの水辺や草むらなど様々な環境で観察される。環境に合わせて、緑色や茶色、灰色、白色へと体の色を変化させる。鼻から目、耳にかけて黒褐色のラインが特徴。(Fig. 5)

アカガエル科 - ウシガエル *Rana catesbeiana*

沼地や止水など流れの少ない水辺で観察される。アメリカ合衆国南東部、カナダ南部原産の大型のカエルであり、1910 年代に日本に持ち込まれ生息域を広げる。

有隣目**トカゲ科 - ヒガシニホントカゲ *Plestiodon finitimus***

草地や里山などで観察される。幼体は黒色の体、背側に 5 本の黄色いライン、光沢のある青色の尾が確認できる。一方成体は全身が茶色であり、背側のラインも不明瞭になる。(Fig. 6)

ナミヘビ科 - アオダイショウ *Elaphe climacophora*

草地や里山などで観察される。成体は淡い緑色や青褐色、幼体は麦藁色。眼の前後に黒色のラインが入る。樹上でも確認され、木を登るために腹板のキール(鱗にある突起)が発達しているとされる。

カメ目**ヌマガメ科 - ミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans***

川や池などで観察される。アメリカ合衆国及びメキシコが原産地で、頭部の側面に赤色の模様が特徴。オスはメスへの求愛として、前足を頭部の側面で震わせる行動が観察される。(Fig. 7)

カモ目**カモ科 - カルガモ *Anas zonorthyncha***

川や池、水田などで観察される。雌雄ともに全身が褐色。嘴の先端が黄色であり、日本で観察されるカモの仲間において、この特徴はカルガモでのみ確認される。

キジ目**キジ科 - キジ *Phasianus colchicus***

草地や農耕地などで観察される。オスは赤色の頭部、光沢のある緑色の胸部、長い尾羽を特徴とするが、メスは全身が黄褐色である。

ハト目**ハト科 - キジバト *Streptopelia orientalis***

草地や農耕地、市街地などで観察される。全身が褐色のハトの仲間。首に白色、羽に赤茶色の鱗状の模様が特徴。

ハト科 - カワラバト *Columba livia*

草地や農耕地、市街地などで観察される。雌雄ともに、素囊(消化管の一部)からの分泌物(ピジョン・ミルク)を雛に与え、育てる。

ペリカン目**サギ科 - アオサギ *Ardea cinerea***

主に水辺で観察される。魚類や両生類、爬虫類、小型哺乳類などを食料とする。駒寄川でも獲物を探索し、浅瀬をゆっくりと歩く姿がみられる。(Fig. 8)

サギ科 - ダイサギ *Ardea alba*

主に水辺で観察される。大型の白いサギであり、足は全体的に黒色である。(Fig. 9)

サギ科 - コサギ *Egretta garzetta*

主に水辺で観察される。ダイサギと異なり足の先端部は黄色。水草の茂みや泥に潜む魚類や甲殻類などを足で追い出し捕食する行動がみられる。

ブッポウソウ目**カワセミ科 - カワセミ *Alcedo atthis***

主に水辺で観察される。英名で「Common Kingfisher」と呼ばれ、水中へ飛び込み食料となる魚などを捕える。オスは嘴全体が黒色、メスは下嘴の朱色である。

スズメ目**カラス科 - ハシボソガラス *Corvus corone***

草地、農耕地、市街地などで観察される。雑食性で種子や小動物などを食料とする。クルミや貝などを高所から落とす、車に轢かせるなどの方法で中身を取り出す採食行動が知られる。(Fig. 10)

カラス科 - ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

森林や住宅地などで見られる。ハシボソガラスと比べて嘴が太く湾曲し、額が突出する。陸上では、ハシボソガラスは歩行による移動をするが、本種は跳ねるように移動する姿が観察される。

モズ科 - モズ *Lanius bucephalus*

草地、農耕地で観察される。食料となる小動物などを木の枝にさす習性「はやにえ」が知られる。これは、冬季の貯食や繁殖(2~5月)の成功率を上げる栄養食としての機能が示唆されている。

シジュウカラ科 - シジュウカラ *Parus minor*

草地、市街地、公園など身近な場所で観察される。胸部にネクタイのような黒線が入り、オスでは太く、メスでは細い。また、鳴き声を組み合わせ、文法を伴ったコミュニケーションをとることが知られる。茅ヶ崎市の「市の鳥」であり、博物館キャラクター「びじゅうからちゃん」は本種をモデルとしている。

ムクドリ科 - ムクドリ *Spodiopsar cineraceus*

草地、農耕地、市街地、河原など幅広い環境で観察される。つがいで行動することが多く、メスはオスと比較して頭部の黒みが少ない。(Fig. 11)

ヒタキ科 - ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*

草地や農耕地、河川敷などで観察される。オスは頭頂部が灰色、腹部や腹部が橙色であるが、メスは全体的に淡い褐色。雌雄ともに翼に白色のスポットがみられる。

スズメ科 - スズメ *Passer montanus*

草地、人家周辺など身近に観察される。頬の黒色の模様が特徴であるが、幼鳥では薄く不明瞭である。

セキレイ科 - ハクセキレイ *Motacilla alba*

草地や農耕地、市街地などで観察される。ハクセキレイは英名で「White Wagtail」(Wag = 振る / Tail = 尾)と呼ばれ、尾を上下に振る行動がみられる。(Fig. 12)

ホオジロ科 - ホオジロ *Emberiza cioides*

草地、農耕地、河原などで観察される。オスは眼の前、下嘴に黒色のラインがみられるが、メスでは褐色のラインとなり、比較的目立たない。

クモ目

ヒメグモ科 - ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus*

低木や軒下などで観察される。オスに比べメスのほうが大型であり、腹部に朱色の模様がみられる。特定外来生物であり、有毒であるため絶対に触れてはならない。(Fig. 13)

コガネグモ科 - オニグモ *Araneus ventricosus*

住宅地から森林、里山などで観察される。夜間に円形の巣を作り、獲物を待ち伏せする。(Fig. 14)

コガネグモ科 - サツマノミダマシ *Neoscona scylloides*

草地や里山、森林などで観察される。腹部が黄緑色をしており、サツマの実(ハゼノキ)に似ていることが和名の由来とされる。似た種にワキグロサツマノミダマシがいるが、腹部の模様で判別される。

コガネグモ科 - ドヨウオニグモ *Neoscona adianta*

住宅地から草地、里山などで観察される。草原などの低い位置に円形の巣を作る。

コガネグモ科 - ジョロウグモ *Trichonephila clavata*

草地や里山などで観察される。3層の巣(主網の前後に補助網)を形成する。(Fig. 15)

コガネグモ科 - ナガコガネグモ *Argiope bruennichi*

草地や里山などで観察される。外敵などからの刺激に対し、巣をゆする行動がみられる。(Fig. 16)

ハエトリグモ科 - アオオビハエトリ *Siler cupreus*

草地のほか、人家周辺や荒れ地などでも観察される。金属光沢のある緑色の頭胸部に水色のラインが特徴。主にアリ類を捕食する。

ハエトリグモ科 - アリグモ *Myrmarachne japonica*

草地や里山などで観察される。俳諧性のクモの仲間であり、アリ(有毒な分泌液である蟻酸を持つ)に擬態することで捕食者を回避しているとされる。

ハエトリグモ科 - シラヒゲハエトリ *Menemerus fulvus*

草地や人家周辺などで観察される。白色の毛で覆われ、成体は腹側部に黒色のラインがみられる。

ハエトリグモ科 - シラホシコゲチャハエトリ *Sitticus penicillatus*

草地や里山、人家周辺などで観察される。雌雄で体色に差がみられ、オスは全身が黒色で腹部背側に2対の白点がみられる。メスは全身が灰褐色であり、腹部に模様はみられない。

アシダカグモ科 - アシダカグモ *Heteropoda venatoria*

森林や住宅地付近などで観察される。巣を作らず、獲物を求めて徘徊する肉食性のクモ。

コモリグモ科 - キクヅキコモリグモ *Pardosa pseudoannulata*

田畑などの水辺や湿度の高い草原などで観察される。徘徊性のクモであり、和名に「コモリ」とつくように、親グモは卵のうと孵化した子グモを腹部にくっつけて行動する。

ワラジムシ目

オカダンゴムシ科 - オカダンゴムシ *Armadillidium vulgare*

林や植込みの落ち葉、石の下などで観察される。雑食性であり、落葉や動物の死骸などを食料とする。

トンボ目

アオイトトンボ科 - オオアオイトトンボ *Lestes temporalis*

池や沼、湿地など水辺付近で観察される。胸部は黄緑色、背側は金属光沢のある緑色。成熟すると、オスは尾の先端部が白く粉をふく。

カワトンボ科 - ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata*

池や沼、湿地など水辺付近で観察される。翅は黒く、オスの体は光沢のある緑色、メスは黒褐色である。羽化中とその直後は乳白色である。

ヤンマ科 - クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus*

平地や丘陵の水辺などで観察される。雌雄で体色に差がみられ、オスでは腹部に青色の斑紋、メスでは緑色の斑紋がみられる。稀にオス型の体色をしたメスも発見される。

トンボ科 - アキアカネ *Sympetrum frequens*

平地や丘陵の水辺などで観察される。オスは腹部が赤く、メスや未成熟個体は腹部が淡い褐色。「赤とんぼ」としてなじみ深いトンボの1種である。

トンボ科 - ウスバキトンボ *Pantala flavescens*

平地や丘陵の水辺などで観察される。淡い橙色をしており、オスは産卵地となる水辺周辺を縄張りとして飛行する。

トンボ科 - コノシメトンボ *Sympetrum baccha*

平地や丘陵の水辺などで観察される。雌雄で体色が異なり、成熟したオスは鮮やかな赤色、メスは黄褐色である。(Fig. 17)

トンボ科 - シオカラトンボ *Orthetrum albistylum*

水辺や市街地など、様々な環境で観察される。雌雄で体色が異なり、成熟したオスは黒地の体に白色の粉をふくが、雌や未成熟個体では薄い黄色の体に黒い斑紋がみられる。(Fig. 18)

トンボ科 - ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia*

平地や丘陵の水辺などで観察される。オスは全身が鮮やかな赤色、メスや未成熟個体は、黄色や薄褐色。翅の根元は橙色を帯びる。

バッタ目**バッタ科 - ショウリョウバッタ *Acrida cinerea***

草地や森林などで観察される。緑色や褐色など体色にバリエーションがみられる。オスはチキチキと音をたてて飛ぶ。

バッタ科 - トノサマバッタ *Locusta migratoria*

草地や森林などで観察される。前胸部背側にくぼみがある点が特徴。

オンブバッタ科 - オンブバッタ *Atractomorpha lata*

草地や森林などで観察される。和名に「オンブ」とつくように、メスの背にオスが乗る姿がみられる。

ケラ科 - ケラ *Gryllotalpa orientalis*

草地や森林、農耕地の地中などで観察される。前脚が鍬のような形体をとる。主に地中に生息するが、飛行を行い、さらに田畑に水を張る時期には水面を泳ぐ姿も見られる。

ナナフシ目**ナナフシ科 - ナナフシ *Ramulus mikado***

森林や草地で観察される。体色は緑色や褐色、単為生殖し、オス個体は稀にしか観察されない。

ナナフシ科 - トゲナナフシ *Neohirasea japonica*

湿度の高い森林や林床などで観察される。体は褐色であり、背側に小さい突起がみられる。単為生殖し、オス個体は稀にしか観察されない。(Fig. 19)

カマキリ目**カマキリ科 - ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera***

森林や草地で観察される。他のカマキリ目の種と比較し腹部の幅が広い。上腕の 3 対のこぶや胸部腹側が黄色などの特徴から、外来種ムネアカハラビロカマキリと見分けられる。(Fig. 20)

カメムシ目**セミ科 - アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata***

森林や里山などの樹木付近で観察される。黒褐色の体に白色の粉をふく。翅は不透明でこげ茶色。

マキバサシガメ科 - アシブトマキバサシガメ *Prostemma hilgendorffi*

乾燥した地表や石の下などで観察される。小さな昆虫を捕食する肉食性の昆虫であり、博物館の南側軒下で観察された。(Fig. 21)

カメムシ科 - クサギカメムシ *Halyomorpha halys*

草原や森林、市街地まで様々な環境で観察される。ストロー状の口吻で豆類や果樹などの液汁を食料とする。走光性を示し、刺激を与えると悪臭を発する。(Fig. 22)

ヘリカメムシ科 - ホオズキカメムシ *Acanthocoris sordidus*

草原や森林、公園などで観察される。こげ茶色の体や脚に小さなとげがみられる。(Fig. 23)

サシガメ科 - ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni*

樹木の幹などで観察される。腹部の縁が広がり、白色と黒色の模様が交互に見られる。カメムシの仲間、ストローのような口で他の昆虫などの体液を吸汁する。

ハチ目**スズメバチ科 - キイロスズメバチ *Vespa simillima***

草原や森林などで観察され、木の洞や軒下などに営巣する。他のスズメバチの仲間と比較し、胸部及び腹部の黄色みが強い。博物館周辺では 10 月ごろに多く観察された。

スズメバチ科 - セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae*

草原や森林などで観察され、木の洞や軒下などに営巣する。前伸腹節(胸部の後方)が黒色である。博物館周辺では 10 月ごろに多く観察された。

アリ科 - アミメアリ *Pristomyrmex punctatus*

草原や森林、公園などで観察される。女王アリが存在せず、また、オスアリの存在も稀であり、すべてのメスが単為生殖を行う。定住巣を作らず、コロニー全体で移動し続ける。

アリ科 - オオハリアリ *Brachyponera chinensis*

草原や森林、公園などで観察される。大きなアゴをもち、複数匹の女王アリが同一の巣で生活する。

アリ科 - トビイロシワアリ *Tertamorium tsushimae*

草原や森林、公園などで観察される。博物館周辺では 7 月に女王アリの結婚飛行が確認された。

アリ科 - トビイロケアリ *Lasius japonicus*

草原や森林、公園などで観察される。女王アリは走光性を示す。閉館後の博物館の照明周辺では結婚飛行中の女王アリの姿も確認された。

アリ科 - クロヤマアリ *Formica japonica*

日当たりのよい草地などで観察される。博物館周辺では 6~7 月にかけて女王アリの結婚飛行が確認された。(Fig. 24)

ミツバチ科 - ニホンミツバチ *Apis cerana*

草地や森林などで観察される。観察広場では食料となる蜜や花粉を集めに来る姿がみられる。Waggle dance と呼ばれる 8 の字を描く行動で、蜜源の場所を示す。

ハキリバチ科 - オオハキリバチ *Megachile sculpturalis*

草地や森林などで観察される。強度に発達した大顎をもつ。ハキリと名がつくが、本種は松脂や泥などを巣材とする。

アミメカゲロウ目**ウスバカゲロウ科 - ウスバカゲロウ *Baliga micans***

平地や山地などで観察される。幼虫は「アリジゴク」と呼ばれ、乾燥した地面にすり鉢状の巣を形成し、小さな昆虫類を獲物とする。(Fig. 25)

コウチュウ目**コメツキムシ科 - オオフタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus***

森林などで観察される。体色は淡い茶色、上翅の縁に焦げ茶色の斑がみられる。刺激を与えると脚を折りたたむ行動を示す。(Fig. 26)

クワガタムシ科 - コクワガタ *Dorcus rectus*

森林や公園、市街地などの幅広い環境で観察される。オスの大顎には 1 対の突起(内歯)がみられる。クワガタムシは英語で「Stag Beetle」、Stag は雄鹿、Beetle は甲虫を指す。

クワガタムシ科 - ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*

森林などで観察される。大顎の形態に個体差がある。大顎は肢が変化した器官とされ、昆虫における肢の発生に関わる遺伝子が、クワガタ類では顎の形成にも関与していると示唆されている。(Fig. 27)

コガネムシ科 - ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata*

森林や公園、草地などで観察される。光沢を伴った緑色の体に、黄白色の毛がみられる。(Fig. 28)

ツチハンミョウ科 - マメハンミョウ *Epicauta gorhami*

森林や公園、草地などで観察される。頭部は橙色、体は黒色、上翅に白色の縦筋がみられる。体液に有毒な成分が含まれる。(Fig. 29)

テントウムシ科 - ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*

森林や公園、草地などで観察される。赤色の背中に、黒色の斑紋が 7 つあり、刺激を与えると足の節などからコシネリンと呼ばれるオレンジ色の液体を分泌する。(Fig. 30)

テントウムシ科 - ナミテントウ *Harmonia axyridis*

森林や公園、草地などで観察される。体色や模様によくのバリエーションがあり、アブラムシを捕食することから、益虫として農業分野での人との接点がある。(Fig. 31)

チョウ目**アゲハチョウ科 - アゲハ *Papilio xuthus***

森林や公園、草地などで観察される。幼虫は匂い物質を分泌する臭角を頭部にもち、外敵などの刺激に対し、威嚇のような行動を見せる。成虫は色覚が発達していることが知られている。

アゲハチョウ科 - キアゲハ *Papilio machaon*

森林や公園、草地などで観察される。アゲハと類似するが、本種は翅の黄色みが強く、前翅中室(前翅のつけ根)が黒色であることで識別できる。(Fig. 32)

シロチョウ科 - モンシロチョウ *Pieris rapae*

草地や市街地などで観察される。オスとメスで翅の構造に違いがあり、オスの翅は紫外線を吸収するが、メスでは紫外線を反射する。オスがメスを探索する際に使われていると示唆されている。

シジミチョウ科 - クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*

森林や公園、草地などで観察される。オスは翅表が黒色の縁取りと光沢を帯びた青色であるが、メスでは黒色の縁取りが太く、青色部分の面積が小さい。後翅に細長い尾状突起がみられる。

シジミチョウ科 - ベニシジミ *Lycaena phlaeas*

草地のほか、人家周辺や荒れ地などでも観察される。翅の表側のオレンジ色には季節によって違いがあり、春型と秋型では鮮やかなオレンジ色、夏型では黒色を帯びる。

タテハチョウ科 - キタテハ *Polygonia c-aureum*

日当たりのよい草地などで観察される。夏型と秋型の2種類の季節型があり、夏型は翅の黄色みが強く、羽の縁の切込みが不明瞭。一方で秋型は、濃橙色で切込みが明瞭になる。(Fig. 33)

4. おわりに

2024年4月から12月にかけて観察を行い、少なくとも53科81種の動物を確認できた。本稿では筆者が同定できたものについて報告したが、未同定のサンプルも含めると種数はより充実するだろう。また、筆者の専門分野が動物解剖学(主に深海魚や脳)であることを含めると、観察における見落としは排除しきれない。博物館周辺にターゲットを絞った観察は、開館から初めての試みであった。調査方法の検討、観察から調査へのステップアップなど様々な課題と目標が明確となった。地域の自然を調査・記録する、そして調査への土台の形成のためにも、今後も継続して活動し続けてゆきたい。

さいごに、もし博物館周辺の動物や自然に興味を持っていただけたなら、ぜひ自身の目で観察してみたいと強く思う。汗腺がなく汗をかかないハシボソガラスが口を開け駒寄川で水浴びをする様子、獲物に狙いをさだめホバリングしながらも頭部がぶれないカワセミなど、動物種各々の振る舞いは、絶えず変化し続けるスペクトラムそのものである。本稿が自然と関わるきっかけのガイドになれば幸いです。

*** 茅ヶ崎市博物館学芸専門員****参考文献**

- ・緒方隆(2024). 茅ヶ崎市南部の蛾類と茅ヶ崎市全体の蛾相及び北部丘陵の蛾への追加記録. 茅ヶ崎市博物館研究紀要(1), pp. 29 – 68.
- ・小室明彦・須藤格(2008). 茅ヶ崎市における野鳥分布調査について. 文化資料館調査研究報告(17), pp. 21 – 30.
- ・岸一弘(1995). 茅ヶ崎・藤沢の直翅類. 文化資料館調査研究報告(3), pp. 31 – 46.
- ・茅ヶ崎市都市部景観みどり課(2018). 茅ヶ崎の自然を見よう. 第3回茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告. pp. 6 – 14.
- ・Nishida Y and Takagi M. (2019). Male bull-headed shrikes use food caches to improve their condition-dependent song performance and pairing success. *Animal Behaviour*, 152, pp. 29-37.
- ・Toshitaka N. Suzuki, Yui. K. Matsumoto. (2022). Experimental evidence for core-Merge in the vocal communication system of a wild passerine. *Nature Communications*. 13, 5605.
- ・Michiyo Kinoshita and Finlay J. Stewart. (2022). Cortical-like colour-encoding neurons in the mushroom body of a butterfly. *Current Biology*. 32, R97–R115.
- ・Gotoh H and Zinna RA, Ishikawa Y, Miyakawa H, Ishikawa A, Sugime Y, Emlen DJ, Lavine LC, Miura T. (2017) The function of appendage patterning genes in mandible development of the sexually dimorphic stag beetle. *Developmental Biology*, 422: 24-32.



Fig. 2. コイ



Fig. 3. ドジョウ



Fig. 4. スミウキゴリ



Fig. 5. ニホンアマガエル



Fig. 6. ヒガシニホントカゲ



Fig. 7. ミシシippアカミミガメ



Fig. 8. アオサギ



Fig. 9. ダイサギ



Fig. 10. ハシボソガラス



Fig. 11. ムクドリ



Fig. 12. ハクセキレイ



Fig. 13. ハイイロゴケグモ



Fig. 14. オニグモ



Fig. 15. ジョロウグモ



Fig. 16. ナガコガネグモ



Fig. 17. コノシメトンボ



Fig. 18. シオカラトンボ



Fig. 19. トゲナナフシ



Fig. 20. ハラビロカマキリ



Fig. 21. アシブトマキバサシガメ



Fig. 22. クサギカメムシ



Fig. 23. ホオズキカメムシ



Fig. 24. クロヤマアリ



Fig. 25. ウスバカゲロウ



Fig. 26. オオフタモンウバタマコメツキ



Fig. 27. ノコギリクワガタ



Fig. 28. ヒラタアオコガネ



Fig. 29. マメハンミョウ



Fig. 30. ナナホシテントウ



Fig. 31. ナミテントウ



Fig. 32. キアゲハ



Fig. 33. キタテハ